

## サイプレジン（調節麻痺薬）を点眼される方へ

本日外来で点眼する目薬は、近視、遠視、乱視といった屈折異常を正しく調べるためのものです。眼には遠くを見たり近くを見たりする時に水晶体の厚みを自在に変えてピントを合わせる調節と言う機能がありますので、屈折の状態は目に力を入れたりぼうっとしたりすることで変化します。特に小さいお子様ではその変化が大きくなります。そこで、この目薬を点眼し調節を麻痺させて、本来の屈折の度数を測定します。目薬が効いてくると、ピント合わせができなくなるため、特に近くのものが見にくくなります。また、ひとみが大きくなりますからいつもよりまぶしく感じます。元に戻るまでに1～2日位かかります。多少延びたりすることもあります。心配はありません。

目薬が効いてくるまでには40分から50分かかりますので、点眼後は席を外してもかまいませんが、時間になりましたら廊下でお待ち下さい。放送でお名前をお呼びします。

点眼時間       ：

                  ：       までに外来の廊下にお戻り下さい。

点眼後の検査の流れ

屈折検査→矯正視力検査→診察

帝京大学医学部附属病院眼科外来

## 調節麻痺薬サイプレジン®を用いた精密屈折検査に関する説明書

## 1. 目薬を点眼する理由

- 本日処方する目薬は、近視、遠視、乱視といった「屈折異常」を正しく調べるためのものです。
- 眼には遠くを見たり近くを見たりする時に水晶体の厚みを自在に代えてピントを合わせる「調節」という機能があり、「調節力」を強めたり緩めたりすることで眼の屈折状態が変化します。通常、屈折検査は遠方の視標をボンヤリ見ることによって調節力を緩めて検査を行いますが、幼児や小児では調節力の変化が大きく、上手に緩めることが出来ません。そこで、屈折検査の前に目薬を点眼して調節機能を麻痺させ、本来の屈折度数を測定します。

## 2. 目薬を点眼することによって起こる眼の変化

- ものを見ようとしてもピントが合わなくなり、特に近くが見えにくく老眼のようになります。
- 瞳孔（ひとみ）が大きくなり、光にあたるとまぶしくなります。
- これらの変化は一時的なもので、1日から2日（個人差あり）で元に戻ります。

## 3. 目薬の使い方と検査の流れ

- 眼科外来で、目薬を両眼に1回から2回点眼します。
- 目薬点眼後、40分から50分後に屈折検査と矯正視力検査を行います。
- 外来の混雑の状況により、検査実施時間は前後することがあります。
- 検査の後に診察があります。
- 目薬はしみることがあります（個人差があります）。
- 目薬の副作用として、稀に一過性の精神錯乱を起こすことがあると報告されています。
- 目薬が効くまでの間に、日常と異なる様子がみられたら、眼科外来受付に申し出て下さい。

図 5-24 シクロペントラート塩酸塩を用いた屈折検査の説明書

## 精密屈折検査の目薬の使い方

### 1. 目薬を点眼する理由

ものを見ようとするときには、目の中の筋肉が緊張してレンズの厚さを増しピントを合わせます。このはたらきを調節といいます。

目の屈折度（遠視、近視、乱視の度）は調節を休ませた状態でできます。ところが、小児では、調節を休ませることがよくできないので、普通の方法で検査しても正確なことはわかりません。

したがって、小児で屈折の検査をする場合には、調節を休ませる目薬を点眼した上で検査をしないと意味がないことになります。

この精密検査を怠ったために、実は遠視であるのに、弱視とか近視と誤診されたり、度の合わない眼鏡をかけている小児もまれではないのです。

そこで、小児で視力が悪い場合や、斜視の場合には、この目薬を点眼して検査をする必要があります。

### 2. 目薬を点眼することによって起こる目の変化

(1) ものを見ようとしてもピントが合わせにくくなり、とくに近くが見にくく、老眼のようになります。

(2) 瞳孔（ひとみ）が大きくなり、光にあたるとまぶしくなります。

これらの変化は一時的なもので、点眼を中止すると、1～2週間でもとに戻ります。

### 3. 目薬の使い方

(1) 1日3回（朝、昼、夕）1滴ずつ、5日間両眼に点眼して下さい。

(2) 目がしらにある涙穴から目薬が入り、からだに吸収されると、顔が赤くなったり、熱が出たりすることがまれにあります。涙穴から目薬が吸収されないように、目薬を点眼したあと、目がしらの部分を1分位押えておいて下さい。もし、熱が出たら点眼を中止し、電話で連絡して下さい。

(3) この目薬は検査のためのものです。本人以外は絶対に使用しないで下さい。使い終わったら、すててしまった方が安全です。

(4) 月 日から点眼をはじめ、 月 日 時まで  
外来へお出で下さい。

帝京大学医学部附属病院眼科  
東京都板橋区加賀 2-11-1  
電話 (03)3964-1211

## 調節麻痺薬アトロピンを用いた精密屈折検査に関する説明書

## 1. 目薬を点眼する理由

- 本日処方する目薬は、近視、遠視、乱視といった「屈折異常」を正しく調べるためのものです。
- 眼には遠くを見たり近くを見たりする時に水晶体の厚みを自在に代えてピントを合わせる「調節」という機能があり、「調節力」を強めたり緩めたりすることで眼の屈折状態が変化します。通常、屈折検査は遠方の視標をボンヤリ見ることによって調節力を緩めて検査を行います。幼児や小児では調節力の変化が大きく、上手に緩めることが出来ません。そこで、屈折検査の前に目薬を点眼して調節機能を麻痺させ、本来の屈折度数を測定します。

## 2. 目薬を点眼することによって起こる眼の変化

- ものを見ようとしてもピントが合わなくなり、特に近くが見えにくく老眼のようになります。
- 瞳孔（ひとみ）が大きくなり、光にあたるとまぶしくなります。
- これらの変化は一時的なもので、点眼を中止すると2週間程度（個人差あり）で元に戻ります。

## 3. 目薬の使い方

- 1日2回（朝、夜）1滴ずつ、5日間両眼に点眼して下さい。  
点眼期間：平成 年 月 日 - 月 日
- 点眼時は両眼同時に点眼せず、出来れば30分程度間隔を空けて下さい。
- 朝は右眼から点眼、夜は左眼から点眼、というように最初に点眼する眼を替えて下さい。
- 目頭（めがしら）にある涙穴から目薬が体内に吸収されると、稀に、顔が赤くなったり、熱が出たりすることがあります。点眼後は、目頭部分を1分程度押さえて下さい。
- これらの症状が出たら点眼を中止し、眼科外来（〇〇・〇〇〇・〇〇〇〇）に連絡して下さい。

図 5-25 アトロピン硫酸塩を用いた屈折検査の説明書

## インフォームドコンセントの順番

1. 病態の説明
2. その治療の必要性と方法
3. 副作用
4. 副作用の対処方法

■ 表 1. 精密屈折検査の目薬の使い方

### 1. 目薬を点眼する理由

物を見ようとするときには、目の中の筋肉が緊張してレンズの厚さを増しピントを合わせます。この働きを調節といいます。

目の屈折度（遠視，近視，乱視の度）は調節を休ませた状態で決められます。ところが，小児では，調節を休ませることが良くできないので，普通の方法で検査しても正確なことは分かりません。

従って，小児で屈折の検査をする場合には，調節を休ませる目薬を点眼した上で検査をしないと意味がないことになります。

この精密検査を怠ったために，実は遠視であるのに，弱視とか近視と誤診されたり，度の合わない眼鏡を掛けている小児もまれではないのです。

そこで，小児で視力が悪い場合や，斜視の場合には，この目薬を点眼して検査する必要があります。

### 2. 目薬を点眼することによって起こる目の変化

(1) 物を見ようとしてもピントが合わせにくくなり，特に近くが見にくく，老眼のようになります。

(2) 瞳孔（ひとみ）が大きくなり，光に当たるとまぶしくなります。

これらの変化は一時的なもので，点眼を中止すると，1～2週間で元に戻ります。

### 3. 目薬の使い方

(1) 1日2回（朝，夕）1滴ずつ，5日間点眼して下さい。

(2) 乳児では，目がしらにある涙穴から目薬が入り，からだに吸収されると，顔が赤くなったり，熱が出たりすることがまれにあります。乳児の場合は，涙穴から目薬が吸収されないように，目薬を点眼した後，目がしらの部分を1分くらい押さえておいて下さい。もし，熱が出たら点眼を中止して下さい。

(3) この目薬は検査のためのものです。本人以外は絶対に使用しないで下さい。使い終わったら，捨ててしまった方が安全です。

病態の説明

必要性

副作用

副作用の対処方法